

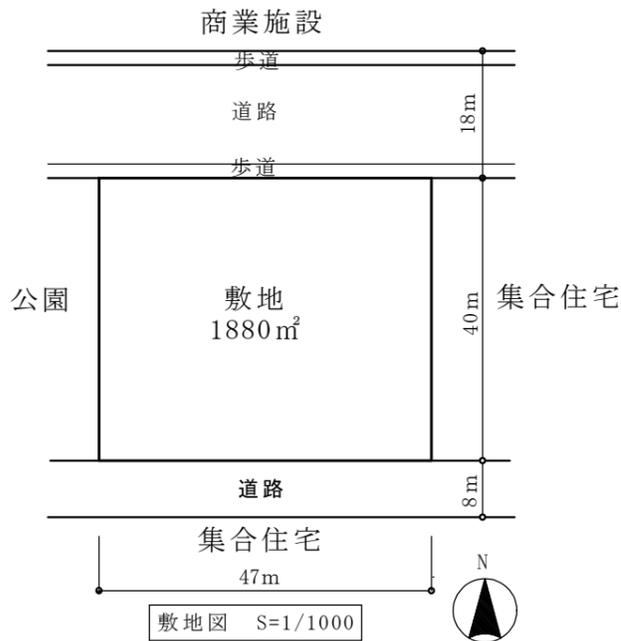
設計課題 地域図書館(段床形式の小ホールのある施設である。)

I 設計条件

この課題は、ある地方都市において、段床形式の小ホールのある地域図書館を計画するものである。

1 敷地及び周辺条件

- 敷地の形状、接道条件、周辺状況等は、下図の通りである。
- 敷地は、平坦で、道路及び隣地との高低差はないものとする。また、歩道の切り開きは、1箇所当たり6mまでできるものとする。
- 敷地は、近隣商業地域及び準防火地域に指定されている。また、建ぺい率の限度は80%(特定行政庁が指定した角地における加算を含む。)、容積率の限度は400%である。なお、日影についての特別な配慮はしなくてよい。
- 電気、ガス及び上下水道は、完備している。
- 地盤は良好である。
- 気候は温暖で、積雪についての特別な配慮はしなくてよい。



2 建築物

- 構造、階数等  
鉄筋コンクリート造とし、地上2階建ての1棟の建築物とする。なお、梁については鉄骨造としてもよい。
- 床面積の合計  
床面積の合計は、2,000 m²以上、2,400 m²以下とする。  
この課題の床面積の算定においては、ピロティ、塔屋、バルコニー、屋外階段等は、床面積に算入しないものとする。
- 要求室  
下表の室は、すべて計画する。

部門	室名	特記事項	床面積
図書館部門	一般開架閲覧室	・開架書庫は、約100 m²とする。 ・閲覧席は、50席程度とする。 ・貸出カウンターを設ける。 ・レファレンスコーナーを設ける。	約300 m²
	児童閲覧室	・開架書庫は、約50 m²とする。 ・閲覧席は、30席程度とする。 ・貸出カウンターを設ける。	約200 m²
	閉架書庫		約100 m²
	研修室	・各種講座等に利用する。	約100 m²
	サークル室	・2室(約25 m²/1室)を設ける。 ・サークル活動等に利用する。	約50 m²
小ホール部門	小ホール	・2階に設けるものとする。 ・客席は、250席程度とし、車いす用席を2席設ける。 ・客席の天井高さは、最低3m以上とする。 ・段床形式の固定席とする。 ・ステージ(奥行は5m程度)を設ける。	約300 m²
	ホワイエ		適宜
	楽屋 準備室	・ステージに隣接する。 ・会議室としても利用する。	適宜
共用・管理部門	エントランスホール	・北側・南側道路からアプローチできるものとする。 ・風除室を設ける。 ・総合案内コーナーを設ける。	適宜
	軽食・喫茶室	・外部からも利用できるものとする。 ・レジカウンターを設ける。 ・厨房を設ける。	約200 m²
	事務室	・施設の管理・運営を行う。 ・職員5名が常駐する。	適宜
	スタッフ室	・休憩等に利用する。	
	設備スペース	・採用した設備計画に応じて、設備機械室(空調、給排水、電気等)、屋外機置場等を計画する。	
・上記の室に関連して必要と思われる室等は、適宜計画するものとする。 ・その他必要と思われる室等は、適宜計画するものとする。			

3 その他の施設

- 北側道路に面して、軽食・喫茶室から利用できる屋外カフェテラス(30席程度)を設ける。
  - 駐車場は、地上に平面駐車とし、車いす使用者用として1台分、サービス用として2台分を設ける。また、他の利用者・職員の駐車場については、近隣の駐車場を利用するものとする。
  - 駐輪場は、利用者用として20台分(1台当たり0.5m×2m程度)を設ける。
  - 敷地内の主要な通路に設けるスロープは、幅を1.5m以上、勾配を1/15以下とする。
  - ごみ置場を設ける。
- (1)~(5)の「その他の施設等」は、床面積に算入しないものとする。

4 計画に当たっての留意事項

計画に当たっては、特に次のことが求められている。

- 建築計画については、次の点に留意する。
  - 図書館部門、小ホール部門、共用・管理部門の異なる機能を適切にゾーニングした計画とするとともに、動線に配慮した計画とする。
  - バリアフリーに配慮する。
  - 敷地の周辺環境に配慮する。
- 構造計画については、次の点に留意して計画する。
  - 建築物全体が、構造耐力上、安全であるように計画する。
  - 構造種別、架構形式、スパン割を適切に計画する。
  - 必要に応じて、耐力壁等を設け、耐震性に配慮する。
  - 部材の断面寸法を適切に計画する。
- 設備計画については、次の点に留意して計画する。
  - 空調設備、給排水衛生設備、電気設備を適切に設け、環境負荷低減に配慮する。
  - 排煙設備を適切に設ける。
  - エレベーター(利用者用、サービス用)を適切に設ける。

II 要求図面等

答案用紙I及び答案用紙IIの定められた枠内(寸法線については枠外でもよい。)に、黒鉛筆を用いて記入する。

1 要求図面(答案用紙Iに記入)

下表により、所定の図面を作成し(フリーハンドでもよい。)、必要な事項を記入する。

図面及び縮尺	特記事項
(1) 1階平面図兼配置図及び2階平面図 兼配置図 1/200	① 1階平面図兼配置図及び2階平面図には、次のものを図示又は記入する。 イ. 建築物の主要寸法(柱割り及び床面積の計算に必要な程度) ロ. 室名等 ハ. 要求室の床面積 ニ. 採用した構造種別、架構形式及びスパン割に応じて必要となる構造要素 ホ. 設備シャフト(パイプシャフト(PS)、ダクトスペース(DS)、電気シャフト(EPS))の位置 ヘ. 設備計画に応じた設備スペース(ただし、屋上に設けた場合は断面図に図示する) ト. 断面図の切断位置 ② 1階平面図兼配置図には、次のものを図示又は記入する。 イ. 建築物の出入口 ロ. 駐車場(台数及び出入口を明示する) ハ. 駐輪場(台数を明示する) ニ. ごみ置場 ホ. 通路・植栽等 ③ 2階平面図には、次のものを図示又は記入する。 イ. 1階の屋根、ひしし等となる部分 ロ. 居室の最も遠い位置から避難階段の一に至る歩行距離・歩行経路
(3) 断面図 1/200	① 切断位置は、小ホールを含み、建築物の全体の立体構成及び屋根形状がわかる断面とする。なお、水平方向、鉛直方向の省略は行わないものとする。 ② 屋上に設備スペースを設けた場合は図示する。 ③ 塔屋を除く建築物の高さ、階高、天井高、1階床高及び主要な室名を記入する。 ④ 基礎、梁及びスラブの断面を図示する。
(4) 2階梁伏図 1/200	① 2階からの見下げ図とし、主要な柱、大梁、小梁及びスラブは構造部材表の符号を明示する。 ② 構造部材表に主要な柱、大梁、小梁及びスラブの断面寸法を記入し、主要な部材が複数となる場合は空欄に符号・断面寸法を追加する。なお、梁に鉄骨を使用した場合の断面寸法は、H-○×○のように記入する。

2 面積表(答案用紙Iに記入)

- 各階の床面積、その合計を記入する。なお、各階の床面積については、その算定式も記入する。

3 計画の要点等(答案用紙IIに記入)

- 建築計画について、次の①~④の要点等を具体的に記述する。なお、要求図書では表せない部分についても記述する。
  - 建築物の外部動線について、配慮したこと
  - 建築物の内部動線について、配慮したこと
  - 敷地の周辺環境に配慮したこと
  - 小ホールの段床形式について、配慮したこと
- 構造計画について、次の①~②の要点等を具体的に記述する。なお、要求図書では表せない部分についても記述する。
  - 建築物の構造種別、架構形式及びスパン割とこれらを採用した理由
  - 耐震計画について、配慮したこと
- 設備計画について、次の①~④の要点等を具体的に記述する。なお、要求図書では表せない部分についても記述する。
  - 建築物に採用した空調方式と採用した理由
  - 建築物に採用した給水方式と採用した理由
  - 建築物の防災設備について、配慮したこと
  - 設備スペース及び設備シャフトの配置計画について、配慮したこと